

第9回『日本語体験コンテスト in ヤンゴン』 実施報告書



<後列左より>

佐藤総務委員、村松実行副委員長、SET PAING 様(ERIN 日本語センター)、SAM HLA PHYU 様・NYI NYI HTWE 様(AIRISU 日本語学校)、坪井様(CyberMissions Myanmar)、西部審査委員、山田審査委員長、菊川実行委員長、鈴木支店長・石塚様(ANA ヤンゴン支店)、藤原様(在ミャンマー日本国大使館)、能勢様(WIN 日本語学校)、小林様(Myanmar DCR)、ZAW ZAW 様(EN 日本語センター)、THU ZAR WIN THU 様(オハイオ日本語教育センター)、佐藤様(国際交流基金・ヤンゴン外国語大学)

<前列左より>

入賞者5名:NAN TOE EI LINN、HTIKE SANDAR、KHANT KYAW HTET、MAY THIN KHINE、ZIN ZIN SANDI

- 【開催日】 2019年9月12日(木) 予選会 12:00～ 本選会 14:00～
- 【会場】 NOVOTEL YANGON MAX
- 【主催】 一般財団法人 共立国際交流奨学財団
- 【現地実行委員】 MOMIJI 日本語センター
- 【後援】 文部科学省
在ミャンマー日本国大使館
全日本空輸株式会社 ヤンゴン支店
- 【協賛】 株式会社 共立メンテナンス
- 【協力団体】 WIN 日本語学校 / オハイオ日本語教育センター
ERIN 日本語センター / CyberMissions Myanmar
AIRISU 日本語学校 / ティンミャンマー日本語学校
国際交流基金(ヤンゴン外国語大学) / Myanmar DCR
EN 日本語センター

<総評>

2011年より始まり、今年で9回目を迎えた「日本語体験コンテスト in ヤンゴン」は9月12日(木)、ミャンマー・ヤンゴン市 NOVOTEL YANGON MAX にて開催されました。

コンテスト応募者は73名と多くの方に興味を持っていただき、当日は59名が参加されました。

予選会では、日本の地理、政治、経済、文化、文学、社会、流行などの幅広い分野から、聞き取り問題30問が出題され、予選会を通過した16名が本選会に進みました。

今年のスピーチ課題は、

- ①日本では翻訳機が売られています。もしあなたが翻訳機を手に入れたら、日本語を勉強しないで翻訳機を使いますか？それとも使わないで日本語を勉強しますか？その理由を話してください。
- ②日本政府は「日本人は働きすぎる」という問題から、働き方を変えようとしています。働きやすくするためにはどんな方法があると思いますか？その方法を教えてください。
- ③日本語を習得するのは難しいと思いますか？それとも簡単だと思いますか？その理由を話してください。この3つのテーマから1つを選択し、5分間のシンキングタイムの後、3分間の即興スピーチをしていただきました。

本選会出場者は①のテーマを10名、③のテーマを6名の方が選択しました。

スピーチ内容としては、①のテーマでは、「翻訳機では表せない日本の文化や価値観がある」や、「言語は人の気持ちを含んでいるので、機会では表現できない」など、人の気持ちや、言葉の奥にあるニュアンスをくみ取ることもコミュニケーションの1つだという内容を話す方が多かったです。②のテーマは選択者がおらず、日系企業で働いている参加者もおりましたが、意見が聞けずに残念でした。③のテーマでは、「日本語は漢字や会話が難しいが、日本のアニメや映画を観て学び、自分の目標の為に努力をしている」と話す方が多かったです。

本選会では会場を大ホールへ移し、見学者や応援の観客で満席となり、大盛況でした。

そして、審査委員3名による審査の結果、5名が入賞し、実行委員長より賞状と賞品目録が授与されました。

入賞賞品として、2020年1月19日(日)～1月26日(日)(7泊8日機内泊1泊)の日程で、日本体験旅行に参加していただきます。

この日本体験旅行を通じて、日本の良さを身をもって感じていただき、1人でも多くの方に日本への留学を志していただければと思っております。そして、この経験を通じて、将来日本とミャンマー両国の発展に大きく貢献する人材となることを願っております。

<実施報告>

予選会

予選会	12:00～	開会の辞・注意事項説明
	12:05～	予選 (日本の地理、政治、経済、文化、文学、社会、流行などについての聞き取り問題30問)



受付の様子



一次予選の様子

成績上位者16名が本選会へと出場しました！

本選会

本選会	14:00～	予選通過者発表
	14:10～	開会の辞・審査委員紹介・注意事項説明
	14:20～14:25	シンキングタイム
	14:25～	スピーチ(審査員からの質疑応答あり)



スピーチの様子



審査員による質疑応答の様子

表彰式

表彰式	16:00～	「夢・日本体験賞」入賞者発表(5名)
-----	--------	--------------------

<式次第>

- 一、 閉会の辞
- 一、 実行委員長挨拶
- 一、 来賓挨拶
- 一、 審査委員長講評
- 一、 入賞者発表
- 一、 奨励賞授与
- 一、 閉会の辞

<実行委員長 挨拶>



菊川実行委員長

<来賓 挨拶>



在ミャンマー日本国大使館
藤原 尚子様



ANA ヤンゴン支店
石塚 健太様

<審査委員長 講評>



山田審査委員長

<賞状授与>



入賞者 5 名に菊川実行委員長より
賞状と目録が授与されました。

<奨励賞授与>



村松実行副委員長より
本選会出場者 11 名に
奨励賞が授与されました。

入賞おめでとうございます！

入賞者 5 名には、日本の大学や日本語学校の見学、日本文化の理解を目的とし、『夢・日本体験賞』(7泊8日の日本体験旅行)を贈呈致しました。



<入賞者名簿>

名前	所属	日本語学校
カン チョー テツ KHANT KYAW HTET	西ヤンゴン大学	ERIN 日本語センター
タイツ サンダー HTIKE SANDAR	東ヤンゴン大学	WIN 日本語学校
ズイン ズイン サンディ ZIN ZIN SANDI	ヤンゴン外国語大学	MOMIJI 日本語センター
ナン トー エイ リン NAN TOE EI LINN	ヤンゴン外国語大学	—
メイ ティン カイン MAY THIN KHINE	ヤンゴン外国語大学	AIRISU 日本語学校

過去の入賞者が応援に駆けつけてくれました！



〈写真左より〉

2014年度入賞者 ワイン ワイン ミツ ウーさん

2015年度入賞者 モー ニ ニ テツさん

2017年度入賞者 ソー ユ ナンダーさん

2018年度入賞者 ミャツ ネイ チ トーンさん、ス ミャさん

ひとりずつ自己紹介と、自分が参加した体験旅行の感想を話してくれました！

「アジア体験コンテスト」インターンシップ参加者



当財団主催の第20回「日本人学生の『アジア体験』コンテスト」に入賞し、日本語教育体験として MOMIJI 日本語センターでインターンシップ中の船曳凌史さんが、当コンテスト運営を手伝って下さいました！

〈写真左より〉船曳凌史さん(岡山理科大学 教育学部 初等教育学科2年)、村松実行副委員長(MOMIJI 日本語センター 校長)

審査委員講評



審査委員 西部 愛美

学校法人共立育英会 共立日本語学院 教員

今回、2年ぶり3回目の日本語体験コンテスト in ヤンゴンの審査員を務めました。今回は59名の方にご参加いただき、その中から予選会を通過した16名に本選会でスピーチをしていただきました。本選会のスピーチ課題は、1番の「翻訳機を手に入れたら翻訳機を使いますか。それとも使わないで日本語を勉強しますか」を選んだ方が10名、3番の「日本語を習得するのは難しいと思いますか。それとも簡単だと思いますか。」を選んだ方が6名でした。

まず、1番の課題では、「翻訳機を使わないで、日本語を勉強し続けたい」という意見がほとんどで、スピーチを聞いていて、とても感心しました。その理由の中で、「翻訳機は機械だから感情がない。だから、自分の気持ちをうまく伝えられない」、「翻訳機では日本語特有の曖昧な表現ができない」というものがとても印象的で、「外国語を学習する意義をよく理解しているな」と感じました。

3番の課題では、意外にも6名中3名が「あまり難しい」という意見でした。その理由に、「日本語の勉強は面白いから」というものがあり、日本語を教える立場の人間としては、とてもうれしく思いました。また、特に非漢字圏の日本語学習者にとって、漢字を習得するのは大変難しく、苦勞する方が多いのですが、スピーチの中で、「漢字は難しいけど面白い」という意見もあり、「好きこそものの上手なれ」という言葉があるように、「おもしろいと思って勉強を続けることが、上達の近道なのだな」と改めて思いました。

2年ぶりにヤンゴンの日本語体験コンテストの審査をしましたが、2年前と比べて、日本語力はもちろんですが、スピーチの内容を見ても、非常にレベルが高くなっており、驚きました。「今後もミャンマーで多くの人が日本語を学び、日本とミャンマーの関係を強くする架け橋となる人材が増えていくのだろうな」と実感できたコンテストとなりました。